

AIを活用した日本語指導等が必要な子供の 困難さ理解の為の教員支援システム開発

現代人間学部 こども教育学科

准教授 **太田 容次**

研究種目： 基盤研究(C)

研究期間： 2020年度～2022年度

研究分野： 教育工学関連

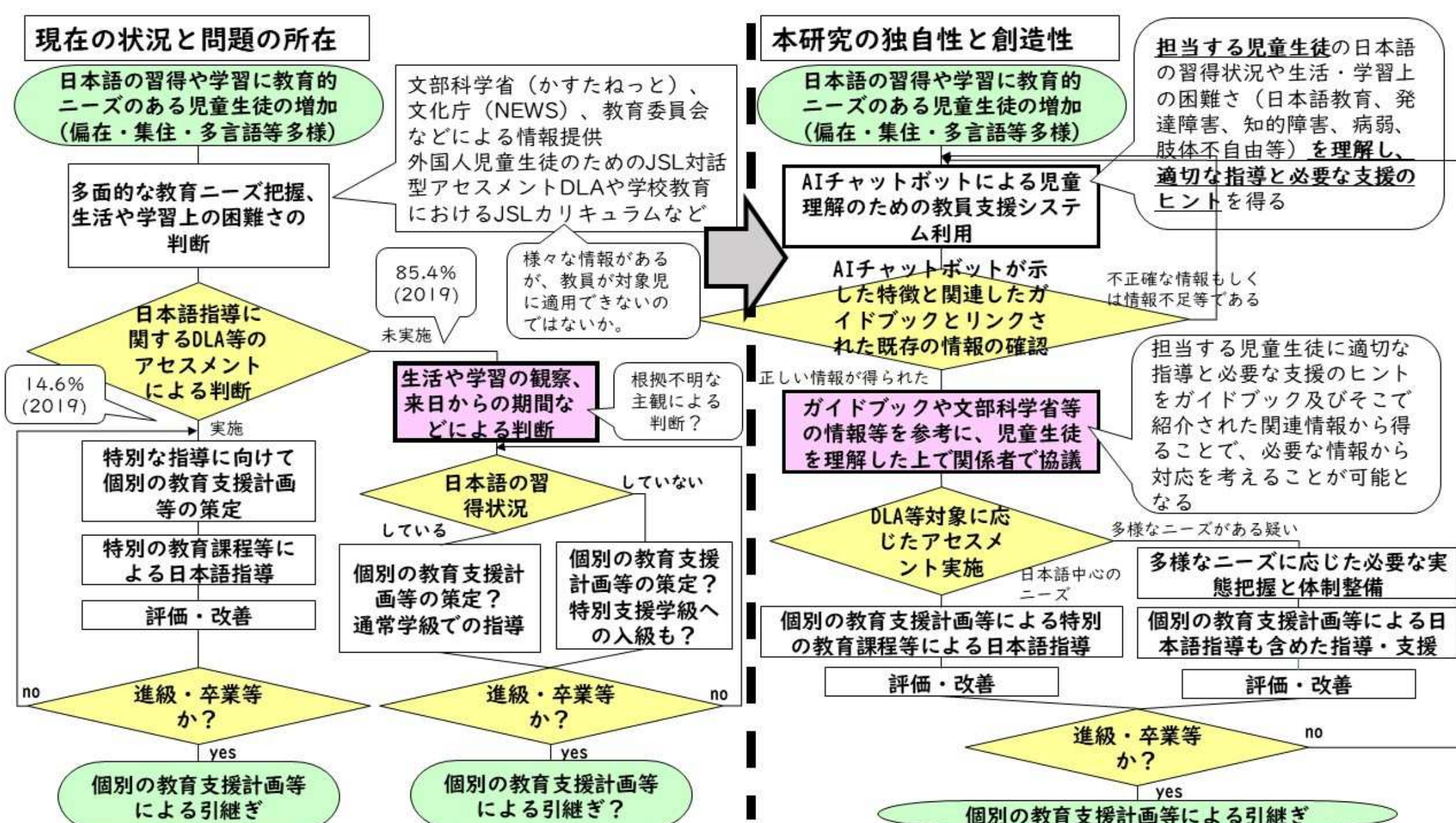


日本語指導が必要な児童生徒が4万人を超えた。多様な背景やニーズがある特別な配慮を必要とする児童生徒を対象とした日本語能力の測定方法やJSLカリキュラム開発等が行われているが課題は多い。

本研究の目的は、日本語の習得や学習に困難のある児童生徒を担当する教員向けの自動対話ロボット（AIチャットボット）とガイドブックを組み合わせた教員支援システムを開発することである。具体的には、一人ひとり異なる日本語習得の状況や社会性、不器用さ、認知面、不注意・衝動性などの実態に関して、日本語教育や特別支援教育の観点から、AIチャットボットが導き出した関連情報等をガイドブックから示すことで、超スマート社会の教員等支援システムを開発する。

主な著書

- 1) 太田容次 (2019), 特別支援教育に関わる教員の専門性向上に関する研究 -遠隔連携システムの全期間及び年度ごとの発話データの分析から, キャリア発達支援研究6号, p. 127-130.
- 2) 太田容次, 金森克浩 (2019), CNS (Closed Networking Service) を利用した能動的な学修・研修方法の開発2 研究参加者の振り返りアンケートの計量テキスト分析から, 日本特殊教育学会第57回大会発表論文集
- 3) 太田容次, 梅田真理, 伊藤由美 (2011), 特別支援教育の充実のための情報普及に関する実際研究(4) -発達障害教育情報センターの取り組みから, 日本教育情報学会, 年会論文集27, p. 206-209.
- 4) 太田容次, 丹羽登他24名共著(監修) (2008), 病弱教育支援冊子 ~病気の子どもの理解のために~, 全国特別支援学校病弱校長会, 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所



京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課

電話：075(706)3789
FAX：075(706)3793

電子メール：kenkyu@ml.notredame.ac.jp